



平成24年 3月15日

第22号

わたしの町の情報源 うちの

発行者 三中地区市民委員会文化広報部 / 市民委員会事務局 TEL 843-1233 FAX 843-1294

みんなで協働のまちづくり

土浦市主催の「みんなで協働のまちづくりシンポジウムとポスターセッション」が1月21日市民会館で開催されました。

【基調講演】

「地域の助け合いによる減災と震災被害を抑える協働の力」と題し、

田尻 佳史氏（認定NPO法人 日本NPOセンター 常務理事・事務局長）が講演され、主な内容は次の通りです。

東日本大震災において、複数のNPOと連携する「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」の幹事団体として、現地の災害ボランティアセンターの運営支援を行っている。

災害発生にあつては「誰かが」から「みんなで」取り組むへ。

災害の救援・復旧は誰がするのかとして、過去は「自助」と「公助」だったが、現在は「個人の取り組み（自助）」と「行政の取り組み（公助）」との間に「民間の取り組み（共助）」が入ってきている。共助とは近隣所のみなさんは勿論だが、規模が大きくなると外部からの支援、ボランティア活動が大きい面を占めてくる。

共助を進めるために「協働」が欠かせない。ここでNPOとの関連が出てくるので、調整機能としてのボランティアセンターの設置が必要になってくる。設置にあたっては、震災後に、

市町村の社会福祉協議会（社協）が他の団体と連携して設置する。

更には地域として取り組むべきこととして色々あるが、各地区の防災組織の皆さんを中心に対応していただくことが重要である。

等々が東日本大震災直後の被害状況とともにスライドにより紹介された。

【事例発表】

◆中村南四丁目町会

有事を想定した炊き出し訓練「中四鍋会」で学習する「防災マップ」に、今回は「井戸のある家」を中心に紹介された。

3・11関連では被害状況の確認リストの作成、ジョイフルアスレチックからの風呂の提供、3月27日、水郷体育館の避難者への炊き出しを行ったことなどが紹介された。

◆六好会

六中地区高齢社会をよくする会の日常活動と、3・11関連で水郷体育館の避難者に対するボランティアの活動が紹介された。支援物資の配布に当たって受付で希望を聞いてボランティアが品揃えをし、持ち出しのチェックをしていたが、被災者が品選びできていないことから直接希望の品が選べるようリーダーに進言。また、女性用品の品選び日に男性ボランティアが付き添っていることに対し女性の目線での意見をして、改善に結びつけたことなどが紹介された。

◆真鍋四丁目町会

「災害時要援護者」の支援について、

土浦市の情報を基に、登録者の戸別訪問、支援内容の確認、個人情報開示の了解等、真鍋四丁目町内会と自主防災会組織の活動及び自主防災会の活動内容が紹介された。

3・11関連では「災害時の要援護者」の在宅確認を行った。防災訓練は従来の震度5以上の本部設置に対し、6弱の想定で自主訓練を行ったことなどが紹介された。

【ポスターセッション】

参加は各地区市民委員会をはじめ、NPO法人、ボランティア団体、わがまち活性化推進事業表彰町内会等26団体が参加していた。三中地区も、専門部の活動、共催事業としての「歌声喫茶」、「文化祭」などでポスターセッションに参加した。



一本号の内容

- みんなで協働のまちづくり … 1
- うちの町紹介「西根南三丁目」「チャレンジクラブ」だより … 2
- 三中地区市民委員会「専門部活動」「文学散歩」 … 3・4
- 「市民体育祭」「歌声喫茶」 … 5
- 文化祭・編集後記 … 6

三中地区世帯数及び人口一覧

平成23年12月1日現在

うちの町の人口	世帯数	平成22年比較	人口	平成22年比較
町 名	今回	増減	今回	増減
荒川沖東一丁目	235	-1	509	-9
荒川沖東二丁目	459	4	1,032	-10
荒川沖東三丁目	735	51	1,432	26
荒川沖南区	300	-8	919	79
荒川沖西区1丁目	87	3	251	5
荒川沖西区2丁目	149	126	396	305
北荒川沖町	418	8	1,124	36
荒川沖西一丁目	324	5	660	-15
荒川沖西二丁目	302	7	715	-9
荒川沖西(区)三丁目	140	-139	352	-361
中荒川沖町	355	-11	746	-33
乙戸町	886	-23	2,435	-67
小山田一丁目	155	2	437	-8
小山田二丁目	46	46	143	143
乙戸南一丁目	425	13	1,147	13
乙戸南二丁目	439	36	1,119	54
乙戸南三丁目	342	14	873	35
中村東一丁目	111	-18	303	-39
中村東二丁目	199	4	522	10
中村東三丁目	67	2	206	0
中村町1区	558	64	1,562	227
中村町6区	178	-25	498	-17
中村町8区	45	-20	136	-53
西根町1区	100	9	371	63
西根町2区	88	-4	269	-27
西根町3区	55	-13	157	-28
中村南一丁目	269	-32	737	-34
中村南二丁目	262	-5	636	-28
中村南三丁目	266	-8	606	-37
中村南四丁目	225	-16	580	-31
中村南五丁目	321	-5	791	-4
中村南六丁目	236	-6	580	6
西根南一丁目	304	-4	808	-1
西根南二丁目	292	-30	681	-72
西根南三丁目	195	-11	469	-25
西根西一丁目	172	2	422	-10
卸町一丁目	33	3	78	25
合 計	9,773	20	24,702	109

うちから町紹介



農地の広がる閑静な住宅街
【西根南三丁目町内会】

私たちの生活している西根南三丁目は、中村小学校に隣接した北西の一帯で、小学校の校庭が約5個分の畑と約1個分の山林が町内を占める閑静な住宅街です。旧・竹ノ入の一部と旧・三区の一部で構成された現在の行政区画になってすぐに自治会が立ち上げられ、26年目を迎えています。

「自治会員全員参加による自治会運営」をポリシーとしており、自治会、二寿

会(60歳以上の方の会)、子ども育成会、サロン会(三世代交流の会)、防災会の協力体制も整ってきています。

町内の活動としては、年度始めの自治会総会に始まり、夏の納涼祭、敬老会、市民体育祭、そして年一度の西根南三丁目防災訓練が行事の軸となっています。平成22年度の中村小学校地区市民体育祭で、自治会始まって以来の「総合第3位」入賞となり、盛り上がりを見せました。

ところで、防災会は自治会員全員が所属していますが、町内独自に20丁目防災団を組織し、他地域の防災訓

練・講習会などに参加し、有事の際に地域での救護ができるように給食・給水・情報収集・伝達・救護の各担当を決め備えています。…が、3・11大震災では、東京勤務あるいは出張中で、帰宅難民となった団員をはじめ、通信による連絡ができず、地域に戻ったものが、各自町内を巡回するにとどまりました(おりしも防災訓練を3月20日に予定していました)。

今後は、町内のコミュニケーションをさらに深めるとともに、各自の防災意識を高める活動を中心に、楽しく明るい地域を目指します。

西根南三丁目 地区長 森 浩孝



三中地区チャレンジクラブは、区内4つの小学校の4～6年生30名で構成し、3つの約束「いつも元気にあいさつします。どんなときでも友達を大事にします。どんなことにも思い切ってチャレンジします。」を守りながら、年10回活動しています。

少子化や都市化などの影響で、地域における子ども達の集団での遊びが減ってきました。そこで、学校が休みの土曜日から日曜日に学校や学年が違っても子ども達が集まり交流しようという目的で活動しているのがチャレンジクラブです。

チャレンジクラブだより

昨年の主な活動を紹介します。第3回「飯ごう炊飯とカレー作り」では、子どもたちは薪を燃やすという経験が少なく、自分達で作った食事はとても美味しく何度もお代わりをしていました。

第5回「見学して学ぼうJAL整備工場見学」では、格納庫に入っている飛行機の機体やエンジンの大きさに驚きました。

第6回「グラウンドゴルフに挑戦」では、土浦グラウンドゴルフクラブの皆様のご指導もあってまたたく間に上達し、ホールインワンを出した子もいました。

楽しく活動する中で子ども同士の交流が深まり、また指導してくださる方々への感謝の気持ちが育っています。

公民館指導員 築 幸子

指導をいただいて上達しました。



三中地区 市民委員会専門部

福祉部

部長 関根

純

福祉部では、介護予防を目的とした健康づくり支援活動を基本目標として、ふれあいセンターながみねを拠点に毎週第一・第三火曜日午前・午後「こつこくバランス健康体操」を実施しており、毎回60名近くの方にご参加をいただいております。また、今年度は、以下のような事業を実施しました。

一、昨年の福島第一原発事故による影響で多くの方が不安に思っている「放射能・放射線」の講演を開催したところ、中身の濃いお話を聞くことができました。

二、毎年6月と10月の年2回、「男の料理教室」を開催しています。10月には「さつま芋ごはん・鮭のホイル焼」などを作り、大変好評でした。

三、三中地区文化祭では、福祉部として「福祉の店の開店」「軽い料理の試食会及びアンケート」「こつこくバランス健康体操」を実施しました。

四、出前講座として「高齢者施設情報と施設を選ぶポイント」を実施しました。このほかに、福祉施設の見学も実施しました。

これからも、皆様の健康づくりや福祉に関する事業に積極的に取り組んでいきます。

安全部

部長 保坂

明洋

最近の社会は、ひたたくり、侵入窃盗等の身近な犯罪が依然として発生しているほか、児童を対象とした凶悪な犯罪が発生するなど、私達の暮らしは必ずしも安全と言えなくなっており、ここの三中地区においても例外ではありません。こうした中で、防犯パトロール等の自主的な防犯活動を行う取り組みが広がっています。今年度、安全部では、地域の皆様が連帯して犯罪防止に取り組めるように『防犯パトロール中』のステッカーを作成しました。また、例年開催しております救急AED講習会では、多くの方にご参加をいただき、心肺蘇生、けがの手当の方法等を習得してもらいました。先の地震の時のように、同時に多数の傷病者が発生したときには自主的な救護活動が非常に重要であると思います。そして、出前講座では、「転ばぬ先の杖」と題し、高齢者が安全に日常生活を送ることに視点を置き、看護師による健康に関する講話や介護予防体操等を行い、大変好評でした。これからも地域の皆様の安全や防犯に関する事業に積極的に取り組んでいきます。

スポーツ健康部

部長 山崎

俊幸

近年、過食と運動不足により健康を害する方が増加しているなか、運動の重要性は従来にも増して高くなってきました。

環境部

部長 西村

良純

環境部は、公民館内の美化活動として、花壇・生垣の整備や敷地内の草取りを計画的に行い、公民館外においては公道のゴミ拾いを積極的に進めております。この様な活動においては、「ワイワイウォーキング」など他部との共催で行動範囲を広げると共に公民館を利用される同好会の皆様や各町内の皆様にも積極的に参加して頂き、年々充実しています。このような中、当部では、スポーツを通じて地域の皆様の健康づくりの一助となるよう、誰もが楽しめる「ヘルシーボール」を推進しております。「ヘルシーボール」とは、簡易的なバレーボールと言えます。バドミントンコートを使用し、縦90センチの楕円形布製ボールでネットを挟んで打ち合うもので、ルールも簡単であり、年齢、性別も問わず参加できる室内競技です。楕円形ボールが思いもよらない方向へ飛んでいってしまう事が多く、見ている方も楽しめます。仲間づくり、健康づくりに最適なスポーツです。東小学校体育館において、10月から1月まで練習会を4回行い、2月には大会を開催し、多くの参加者が快い汗を流しました。

また、3月には、三中地区体育協会と合同で「第20回歩く会」を開催し、多くの方に参加していただきました。

環境部は、公民館内の美化活動として、花壇・生垣の整備や敷地内の草取りを計画的に行い、公民館外においては公道のゴミ拾いを積極的に進めております。この様な活動においては、「ワイワイウォーキング」など他部との共催で行動範囲を広げると共に公民館を利用される同好会の皆様や各町内の皆様にも積極的に参加して頂き、年々充

実した行動が出来るようになって参りました。

特に昨年は公民館の花壇を中心とした評価として、市のコンテストで「最優秀賞」、県では「知事賞」を頂きました。賞を頂くことは今後の励みとなりますと共にプレッシャーとなりますが、皆様と共に精一杯努力をして、公民館に来て頂いた皆様に「きれいに咲いたね」「花があるといいね」と感じて頂ける花壇作りを心掛けると共に、公民館を今以上に「みんなが集まれる場所」にして行きたいと思っています。そして人と人が繋がり、近隣の地域と繋がり、その輪が広がることで、より良い三中地区のまちづくりが進んで行くことを期待しています。

青少年育成部

部長 山田由美子

チャレンジクラブへの協力のほか、新規事業として、「講演会」と「おもしろ科学先生がやってくる」の同時開催を企画しました。保護者を対象にした「講演会」では、問題となっているケータイ依存、ネットいじめ、ネット犯罪などに対するインターネットの安心安全利用の講演を予定していました。が、参加申込者が少数のため残念ながら中止となってしまい、保護者のニーズにあう講演を企画することの難しさを感じました。

子どもを対象とした事業では、「イルミネーションを作ってみよう」という内容で、講師の先生のおもしろ科学実験にみんなは興味津々。製作もあり、大変好評でした。これからも未来を担う子どもたちを地域で支えていくため、青少年の健全育成を目指した事業を開催していきますので、皆様のご協力をお願いします。

文化広報部

文学散歩に参加して

第23回文学散歩が平成23年9月11日に開催されました。34名を載せたバスは三中公民館を9時に、土浦城址周辺散策と小野小町の里、予科練平和記念館へと出発しました。

土浦駅に着くと土浦市観光ボランティアガイドさんの案内で街歩きで



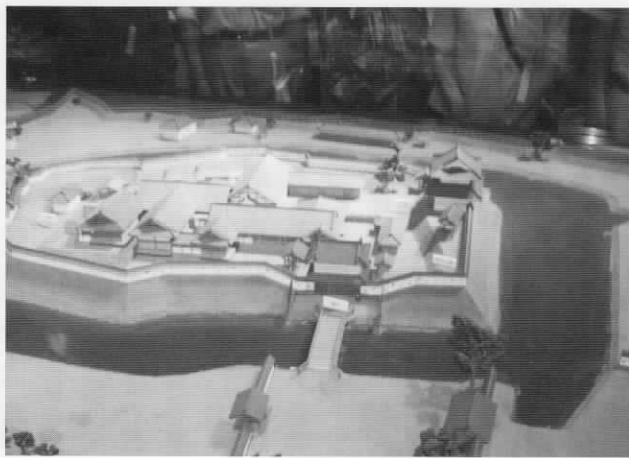
す。筑波山と霞ヶ浦の自然に恵まれた土浦市は遠い昔から人々が住んだ豊かな場所でした。川口河岸には船問屋が軒を連ねていたといえます。現在は埋め立てによってヨットハーバーや遊覧船の姿がレジャーの港としての現代の土浦港を物語っています。

次のまちかど蔵は江戸時代から続く商家、野村家の母屋と袖蔵、文庫蔵を改修し、現在は観光情報を提供する街のアンテナショップとして活躍しています。ここでは絵手紙同好会の展覧会もさせて頂きました。

次に土浦城址と市立博物館。土浦城址（現在の亀城公園）は室町時代後期頃築城されたそうです。江戸時代中期以降は譜代大名土屋氏が城主で9万5千石を領し常陸国では水戸に次

ぐ大名であったと言われています。櫓門（太鼓櫓）、前川口門（高麗門）、霞門（本丸裏門）。3門は当時の門だそうです。櫓門は県指定文化財、東櫓と西櫓は平成に復元したそうです。亀城公園には樹齢500年を越えると言われているシイの木があり歴史を感じました。

次に亀城公園に隣接する市立博物館「霞ヶ浦に育まれた人々のくらし」をメインテーマに「大名土屋家の文化」土浦城下町の歴史と文化が詳しく紹介されていました。



お昼は平安時代の歌人、絶世の美女とつたわれた小野小町の里へ。直径7mの水車がシンボルです。北と東西を筑波山に囲まれた静かな地区です。言い伝えによると小町は京より東北に旅

する途中病に倒れ、この地で元慶7年(883年)69才で生涯を閉じたそうです。小町のそば処では地元産のそば粉を使い、打ち立ての美味しいそばを味わうことが出来ました。日曜のせいかパラグライダーが大空を悠々と気持ちよさそうに飛んでいました。次の予科練平和記念館では、写真家土門拳の企画展「戦中戦後の幻の写真」も開催中でした。平和記念館のモダンな建物に入るとまず目に付いたのは今の少年達とかわらぬごく普通の純真無垢な少年達の写真でした。14、17才の飛行機にあこがれた優秀で比較的貧しい家庭の子供達だったそうです。厳しい訓練にたえ、予科練を卒業すると自ら志願し特攻作戦に加わり、国の為家族の為と信じて散った若い少年達の映像を見ると涙せずにはいられませんでした。

『戦争は絶対にしてはいけない』
命の尊さと平和への認識を深めた一日でした。

文化広報部 高山 愛子



平成23年度の三中地区市民体育祭は晴天に恵まれ10月9日に開催されました。今年では会場である校舎の耐震工事(東小学校・中村小学校)のため荒川沖小学校と乙戸小学校のみの開催となりました。

◎乙戸小学校区のもよう

当日はお天気にも恵まれ、爽やかな中で競技を進めていくことができました。

それぞれの競技に、招集、準備、審判など多くの係りを地域の方が手分けをして任務に当たりスムーズに進行しました。

競技を終えた選手の皆さんは、賞品を受け取る時の顔が一段と輝いておりました。

例年は、昼休みの余興に乙戸夏祭りのお囃子会がひよつこ踊りを披露しておりましたが、今年は東日本大震災の関係で夏祭りを自粛し練習もしていなかったことから、他の文化活動グループにお願いし、「江戸カッポレ踊り」

写真は荒小地区のもよう



を披露することができました。大人から小さな子供まで明るくユーモラスな踊りを披露していただき、ご招待いただきました百数十名の敬老の方々、地域の方々ともに楽しく美味しく食事をいただくことができました。

総合優勝は、乙戸東でしたが、男女の地区別対抗リレーなど種目別の優勝はそれぞれの地区で分け合い、皆でがんばった楽しい体育祭でした。

競技終了後は、全員で後片付けを行い、地域の交流と親睦を深めることができました。

文化広報部 栗又スミ子

第四回歌声喫茶

文化広報部・安全部共催企画

☆輝く歌声☆参加者数最大

平成23年10月22日(土)午後1時30分から、三中地区公民館で文化広報部・安全部共催企画「第四回歌声喫茶愛唱会」が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、過去最多の125人の「歌い手」が参加し、皆で歌う喜びを味わいました。

第一部では「浜辺の歌」など8曲、日本の四季の歌と特別演奏でピアノ独奏と器楽六重奏が披露されました。

第二部では「学生時代」など8曲、懐かしの歌声喫茶愛唱歌を歌いました。

三中地区歌声喫茶愛唱会を運営する上で誇れる点があります。



何と、運営に携わっている人全員が三中地区市民委員会の文化広報部員なのです。

◆メインスタッフ

【ピアノ伴奏】 辻田 規子
【ソングリーダー】

春原 豊・串橋 聖子
高山 愛子・永井 智子

歌声喫茶の運営で、自慢できる点がある一つあります。それは回を追うごとに進化し続ける運営体制です。

ソングリーダーに意欲的な新人を迎え、新旧リーダー及びピアノ伴奏者が連携して技能を高め合う体制ができたこと、役割分担が進み、個々の分野で工夫改善が始まったことです。

さらに、プロジェクターを活用して歌詞を大きく映写したことで、歌い手

の姿勢が良くなり伸びやかな歌声になったことでした。

ピアノ伴奏者による独奏曲の演奏、マンドリン・ギター・アンサンブル、ハーモニカ六重奏など器楽鑑賞の楽しさも享受できました。

また、沢山の皆さんがアンケートに答えてくれました。主なものを紹介します。

★歌謡曲や次の世代が歌える曲を加えて欲しい。

★歌うことは楽しい、楽しいことは嬉しいことですね。

★思い切り声が出せてストレス解消になりました。

など歌声喫茶は三中地区にしっかりと根を下ろし始めているようです。

文化広報部 春原 豊



平成23年度 三中地区文化祭

三中地区市民委員会設立10周年記念として
11月20日に開催されました



編集後記

本号がお手元に届く頃は桜が今にも開花を待っている頃でしょうか。昨年の3・11大震災から1年が過ぎますが大変な思いをしましたね。

編集作業は1月8日の中村東町公民館での文化広報部「新年会」がスタートでした。いつもながら、紙面のレイアウトに苦戦しながらも、部員一同で和気あいあいと記事内容の表現チェックなどを行います。

おかげさまで各町内にて盛大に開催される行事を多数掲載させていただきました。掲載しました記事及び写真などにご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

最近、年に2回の「うちら」編集を手がける中で強く思うことがあります。おかげさまでパソコンのあつかいが大変上達してまいりましたが、パソコンに興味のある方が他にもたくさん参加していただけないかということです。この作業は写真などの貼り付けや6ページへのレイアウトに苦労がありますが大変勉強になりますし、なかなか楽しいものです。

参加してみたいと思われる方、三中地区公民館職員の方へお問い合わせください。大歓迎です。

編集担当 文化広報部 赤川 澄信